
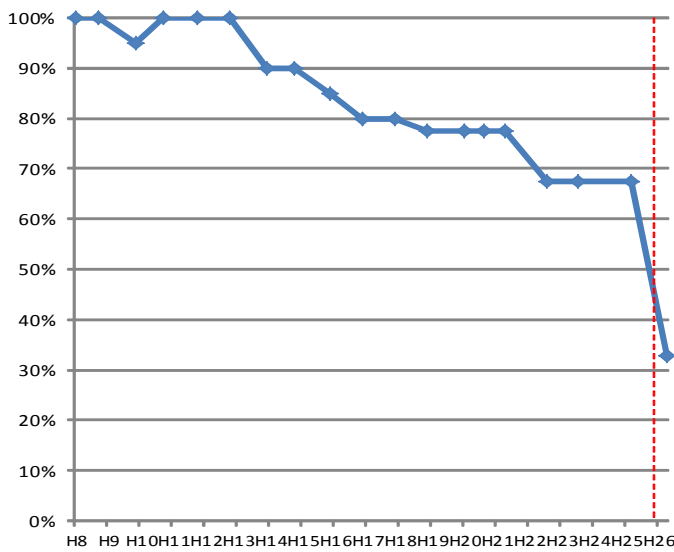


樹種名	ムクノキ（別名：ムク、ムクエノキ）	
科目	ニレ科	
学名	<i>Aphananthe aspera</i>	
分布	関東以南の本州から四国、九州でごく普通に見られ、屋久島、種子島、沖縄に分布する。	
樹木特性	陽樹であり、暖地生の木で、沿岸地域のほか、渓谷沿いの増水時にも浸かるような場所でも生育する。成長は早い。	
用途	公園樹、建築・器具・楽器材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	275本/0.08ha (約3,000本/ha)	
特徴	<p>【樹形】 ムクノキ（椋木、椋の木、椋樹）はニレ科ムクノキ属の落葉高木。 雌雄同株で高さは20m以上、幹の直径は1m以上になり、板根が発達する場合もある。 樹皮は淡灰褐色で、表面は平滑だが樹齢に伴ってすじや割れ目が生じ、老木では樹皮が剥がれてくる。 葉は互生し、長さ4~10cmの卵形又は狭卵形で、縁は先端まで鋸歯状、葉脚はくさび状、3行脈を持つ。葉の質は薄く、表面は細かい剛毛が生え、紙やすりのようにざらついている。向陽適潤地を好む。材は強靱で天秤棒に用いられたほか建築・器具材として、葉は研磨用に利用される。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽5年後から環境要因と思われる枯死が見られた。成長状況は良好であるが、個体毎の成長に優劣の差が顕著に見られる。	
被害	病虫獣害の痕跡は見られず、特になし。	

### ムクノキ 現存率



#### 【現存率】

植栽直後に枯死が発生したことから平成 10 年に補植（20 本）を実施した。このことにより平成 11 年度の現存率が上がっている。

林内の照度調整を図るため、平成 22 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 32.7%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

#### 【根元・胸高直径】

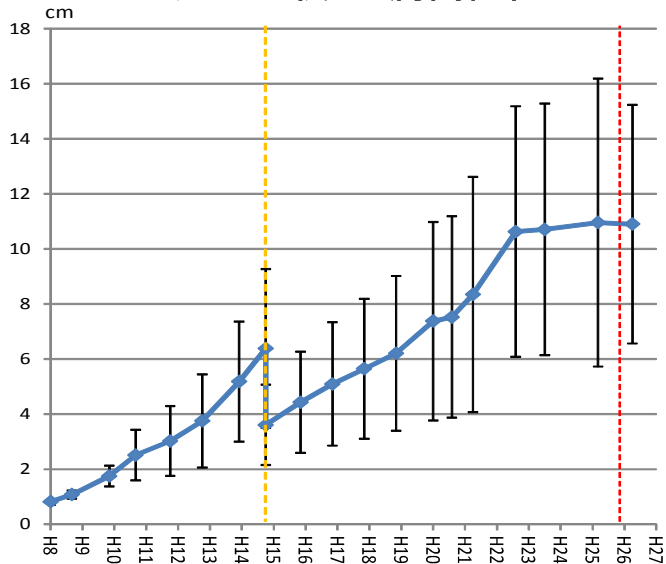
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、10.90cm であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

### ムクノキ 根元・胸高直径



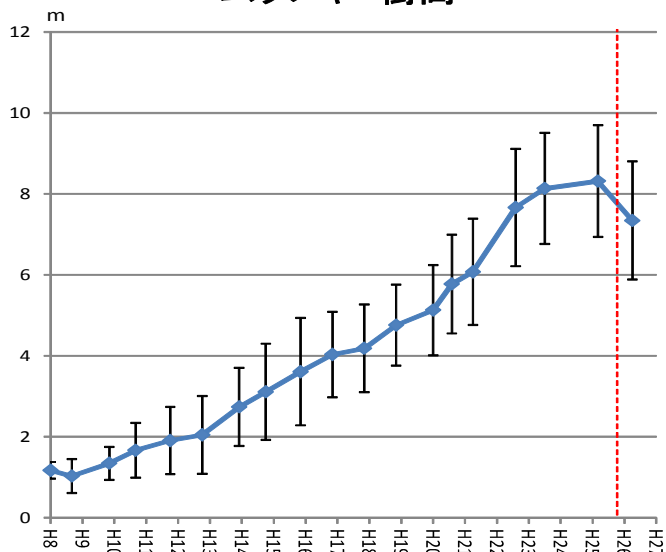
#### 【樹高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、7.34m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

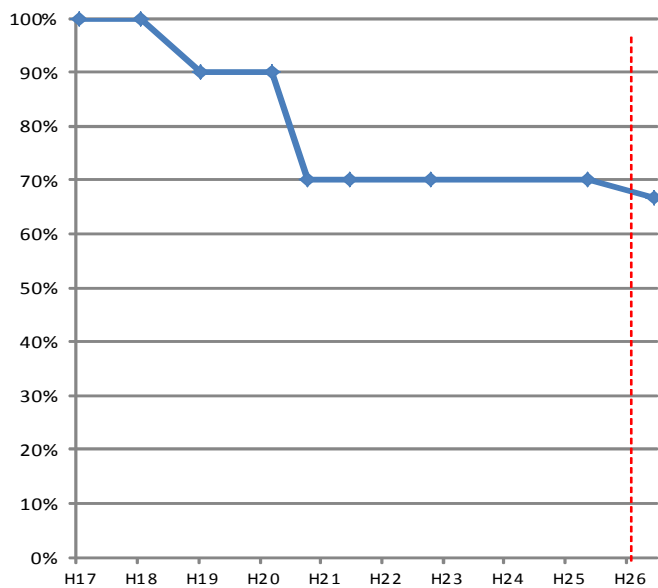
### ムクノキ 樹高





樹種名	ムクロジ	
科目	ムクロジ科	
学名	<i>Sapindus mukorossi</i>	
分布	ムクロジは、中部地方以西の本州から沖縄、国外では中国、インド、インドシナ半島に分布する。	
樹木特性	陽樹であり、谷間など日当たりの良い場所に生息する。	
用途	器具材として利用。昔は果皮を石鹼の代用として利用。	
植栽本数 (植栽密度)	18本 (他樹種との混植)	
特徴	<p>【樹形】</p> <p>ムクロジ（ムクジロ科、Sapindaceae）は双子葉植物に属する科で、約 140 属 2000 種からなる。落葉高木であり、樹高は 15~20m になる。葉は互生し、羽状複葉のものが多く。亜熱帯、熱帯に多く分布する。日本にはムクロジ、モクゲンジなどが野生する。</p> <p>日当たりがよく湿りけの多い山中に生える。寺社あるいは屋敷林に植えることも多い。</p> <p>樹皮は灰褐色で平滑。老木になると不規則に剥がれる。</p> <p>羽状複葉の木の多くは、枝分かれが少なく、一年枝が太い。春先の新芽がかわいい。葉は大きな偶数羽状複葉で、互生する。小葉は 4~8 対あり、広披針形で革質。左右がややずれて対生する。縁は全縁で大きく波うつ。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後 1 年目から 3 年目にかけて枯死が発生したが原因は特定できていない。	
被害	特になし。	

## ムクロジ 現存率



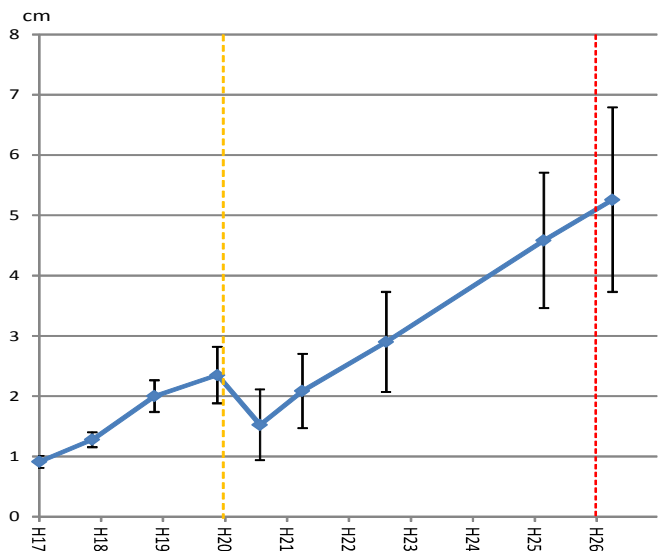
## 【現存率】

植栽後に原因不明の枯死（3本）が発生した。  
また、植栽木同士の被圧が見られたため、本数調整伐（1本）を実施した。  
平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は66.7%であった。  
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

## 【根元・胸高直径】

順調に成長している。  
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は5.26cmであった。  
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。  
※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

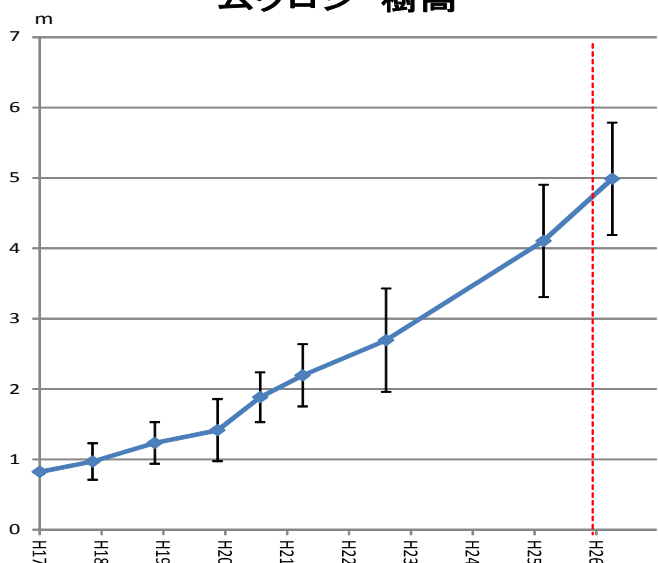
## ムクロジ 根元・胸高直径



## 【樹高】

順調に成長している。  
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は4.99mであった。  
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

## ムクロジ 樹高



## 《プチ情報》

レイシ（ライチー）、ランブータン、リュウガンなどの果樹を含む。そのほか清涼飲料の原料となるガラナ、観賞用に栽培されるフウセンカズラがある。サポニンを含むものが多く、ムクロジ（英名：Soapberry）などは昔石鹸代わりに使われた。さらに、江戸時代ではシャボン玉遊びの原料として、ムクロジやサイカチの実を利用した。

本来、漢名の音読みだが、同科のモクゲンジの漢名「木欒子」と、本種の漢名「木患子」を取り違えた結果の和名。